

「第2期出雲市多文化共生推進プラン」を策定しました

みんなの未来のために

計画期間：令和2年度(2020)～令和6年度(2024)

出雲市には、37の国と地域、4,500人を超える外国人住民が暮らしています。(令和2年(2020)3月末時点)

「多文化共生」とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことです。このプランは、出雲市における多文化共生を進めるための取組方針を示すものです。

言語や文化、価値観の多様化が進むなかで、私たち市民は、相互にコミュニケーションを促進しながら、お互いを認め合い、安心して暮らせるまちをみんなで作っていくことが必要です。

地域の持続的な発展のために、みんなで力を合わせて取り組みましょう。

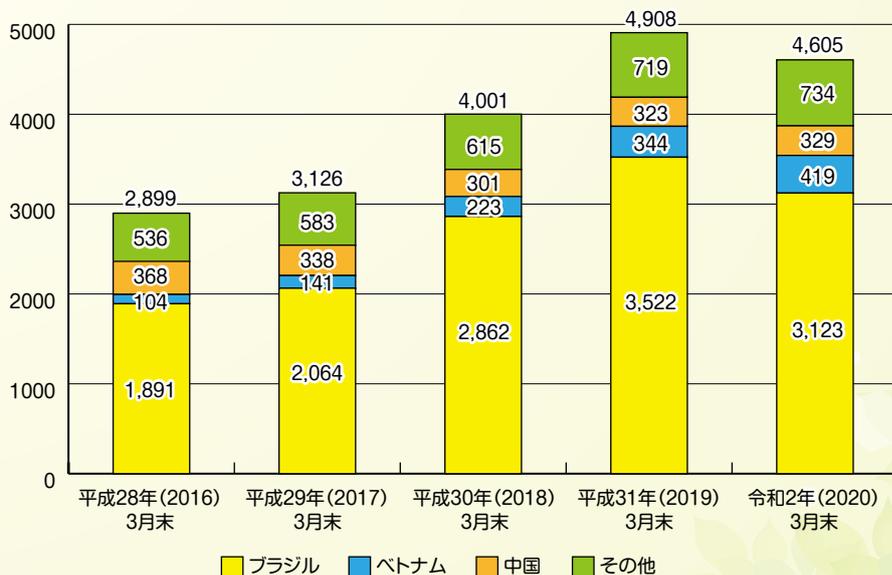
●ビジョン(めざしていく出雲の将来の姿)

多様性を認めあい みんなでつくる 多文化共生のまち

●数値目標(指標)

多文化共生のまちをめざす数値目標(指標)として、令和7年(2025)3月末の外国人住民5年定住率を40%とします。
誰もが安心して長く暮らせる出雲市をめざします。

本市の外国人住民の推移(人)



国籍	人数
ブラジル	3,123
ベトナム	419
中国	329
その他	734
計	4,605
日本	170,185
出雲市の人口総計	174,790

令和2年(2020)3月31日現在

●プランの内容 ビジョンを実現するため、次のことに取り組みます。

取組1 多文化共生の地域づくり

多文化共生の地域づくりを進めるためには、国籍にかかわらず、お互いを理解しようとする意識づくりが必要です。そのため、市や地域で研修会などを行います。

また、相互理解の推進のために、日本文化や外国文化を互いに学ぶ機会の提供や、多文化共生のまちづくりの担い手の育成を進めます。

取組2 コミュニケーション促進

言葉や文化等の違いにより、住民相互のコミュニケーションが円滑に行われず、必要な情報が適切に伝わらないことがあります。そのため、多言語での情報発信や、日本語学習者を増やすための学習環境の充実、やさしい日本語(※)を活用したコミュニケーションの促進を図ります。

取組3 安心して暮らせる環境づくり

日本語がよく分からない場合でも、健康で安心して安全に暮らすことができるよう、日常生活全般にわたり通訳や翻訳などの取組が必要です。そのため、多言語による相談機会の充実、子ども・若者支援の充実をはじめ、職場での多文化共生を推進し、お互いが働きやすい職場づくりへの取組などを支援します。

また、災害に備えるために、防災・災害情報の多言語化をはじめ、訓練や研修を行います。

取組4 多文化共生社会の実現のための体制整備

多文化共生社会の実現のためには、市民や市民活動団体、NPO法人、民間国際交流団体、町内会(自治会)、企業、行政等が、それぞれの役割分担を明確にし、連携・協働して進めていくことが必要です。多文化共生についての情報交換を行う会議や意見交換を開催するなど、様々な団体が連携した取組を進めます。

第2期出雲市多文化共生推進プランの全文は、市のホームページをご覧ください。

※やさしい日本語

「やさしい日本語」は、普通の日本語より簡単で、外国人にも分かりやすいように配慮した日本語のことです。

日常的な会話、自治会(町内会)からのお知らせなどをはじめ、災害時・緊急時など、急いで情報を伝えるときにも使います。簡単な日本語であれば理解できるという人は多いので、「やさしい日本語」のポイントを知り、ご近所、職場や学校などで使ってみましょう。

(やさしい日本語の例) 土足厳禁 → くつを めいでください
R 2 / 8 / 11 (火) → 2020年8月11日(火曜日)

やさしい日本語を使うコツ

- 一つの文を短くし、簡単な構造にする。主語と述語を明確にする。
- 難しい言葉は、簡単な言葉に言い換える。
- あいまいな表現や、二重否定は使わない。「おそらく」「たぶん」「行かないわけではない」
- 漢字にはルビ(ふりがな)をつける。
詳しくは、しまね国際センターのホームページに掲載されています。

○市では、より具体的な取組について検討するため、今後地域や事業所、関係団体のみなさんと意見交換等を行います。

○市民のみなさんに多文化共生について学んでいただく研修会やイベントを行います。詳しい情報が決まりましたらお伝えします。ぜひお出かけください。

○地域での多文化共生推進に関する講習会や、やさしい日本語活用の研修会などへ講師を派遣します。詳しくは、政策企画課文化国際室にご相談ください。

【おたすね／政策企画課文化国際室 ☎21-6576】